

1. 気象概況（中野市長丘地区気象ロボット観測データによる）

月間	旬別	上旬		中旬		下旬		月間		特記・コメント
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
2月	平均気温（℃）	-0.5	-1.8	-0.4	-0.7	-0.3	0.5	-0.4	-0.7	月間平年比+0.3℃（並）
2月	降水量（mm）	6.5	10.2	22.0	21.7	15.5	17.9	44.0	49.8	月間平年比88%（やや少）
2月	日照量（h）	46.9	48.6	47.6	53.8	44.8	63.4	139.3	165.8	月間平年比84%（やや少）

2023 2月気象ポイント

- ◆ 気温：最高気温 9.2℃（2/12） 最低気温 -13.3℃（2/17） 7.2℃以下、低温積算時間 1/5 1,400 時間到達（昨年比 2-3 日早い）
- ◆ 降水量：上旬平年比 64%（少） 中旬平年比 102%（並） 下旬平年比 87%（やや少）
- ◆ 日照量：上旬平年比 97%（並） 中旬平年比 88%（やや少） 下旬平年比 70%（少）
- ◆ -10℃以下観測：1月 6 回（昨年 1 月 15 回） 2月 5 回（昨年 2 月 9 回）
- ◆ 1/24-25 降雪：田上地区 最大積雪量 49cm。 花・野菜関係の無加温ハウスにおいて施設被害 4 件。

2. 生産の経過・病害虫発生状況・今後の対策

加温ハウス（1/13）：サクランボ 9 棟。（R5 計画 13 棟） 初出荷：4 月上旬。

：ハウスもも 1 棟 被覆（12/30）加温開始（1/1）発芽（1/29）開花（2/4） 初出荷：5/8 前後。

：ぶどう棟数は昨年並み。初出荷は 4 月下旬頃。出荷進度は早める見込み。シャインピーク 8 月初旬頃。

① 生育情報

エゾノコリンゴ（果樹試験場）発芽： 2/20（平年比+6、昨年比△9）

② 生産基盤 2023（推定）

ぶどう 230ha・りんご 144ha・もも 86ha・プラム 35ha・和梨 10ha・桜桃 7ha・柿 6ha・西洋梨 5ha

③ 立ち木 2023

りんご：着色向上対策、褐斑病対策：重なり枝や樹冠内部の大枝の整理が必要。密植園では間伐・縮伐を実施し、日当たり、薬剤到達性を改善する。

もも：昨年日当たりの悪かった小枝・中枝の枯死が散見される。剪定時に枯れ枝は健全部まで切り返し、または基から切除する。

プラム：北部の積雪は R 3 年並み。R 3 年、太陽開花は 4/2。凍霜害対策の準備をすすめる。

なし：今シーズンは積雪が少なく暖冬のため、生育が早くなる見込みである。剪定時の芽すぐりの実施・凍霜害対策資材の準備を行い、春先の凍霜害に備える事が必要。

④ ぶどう 2023

- ◆ 全体：シャイン・ルージュ自然増見込。巨峰・パープル面積減見込。ぶどう全体の生産量は昨対 110～115%を見込む。小雪・土壌乾燥による発芽不良（バラツキ）が心配される。

- ◆ シャイン重点：適正房作り。糖度アップに向けた管理等強化（早期摘粒・枝管理他）。

- ◆ ルージュ重点：適正房作り。着色向上対策他。

⑤ 病害虫 2023 重点対策

- ◆ 黒とう病：休眠期防除徹底からの初期の密度抑制。小豆大時の粒感染防止強化（生育が進んでいる場合は 7 日間隔で防除等）

- ◆ 晩腐病：休眠期防除徹底からの初期の密度抑制。巻きひげ除去徹底。梅雨期間の防除徹底。

- ◆ ぶどう主幹害虫：粗皮削り。主幹部への殺虫剤塗布。盛夏期の専用剤の特別散布等。

- ◆ リンゴ腐らん病：R7 年ベフラン液剤 25 販売終了に伴い、腐らん病の発生密度が高まると予想される。

重症（骨格枝の半周以上が罹患）の場合は切除する。小枝・中枝が感染している場合も同様。

軽症で削り取りを行なう場合は茶色く変色している部分が残らないよう処理する。

剪定後は、塗布剤（トップジンMペースト等）を塗布する。

- ◆ リンゴ褐斑病：剪定時に園内の薬剤到達性を見直す。間伐・縮伐、大枝の整理。